

Freude

vol. 11 30 2018.10.3 (水)

プッチーニの仲間集めも！
おは声かけ？

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

プッチーニ (1858~1924) 「グロリア・ミサ」けっこうファンが多い！以下はファンの声のミックス版！

プッチーニは20世紀を代表するイタリアオペラの大作曲家ですが、オペラに比べると宗教曲や声楽曲はあまり知られていません。しかし、このグロリア・ミサは一言ではとても言い尽くせない魅力に溢れた素晴らしい作品です。

グロリア・ミサ (正式には「4声のみサ曲 *Messa a quattro voci*」)は1880年、21歳の作品。名門音楽一族の出自であるジャコモ・プッチーニが作曲を始めたのは、15~6歳の頃とされ、教会のオルガン奏者を務める傍ら、オルガン音楽を作っていたらしい。ルッカで勉学中、音楽コンクールで「モテット」と「クレド」の声楽作品を出して優勝し、その素材を使って書かれたプッチーニ音楽院の卒業作品がこのミサ曲ということになっています。オペラ作曲を夢見て、すでに名作「交響的前奏曲」を10代に残しているくらいだから、プッチーニ特有の甘くも切ないメロディラインと、それを十全に表現しつくす巧みなオーケストレーションもしっかり身に付けていて、どこを聴いてもプッチーニの音がします。初演は好評ではあったものの、作曲家の意思で生前は出版されなかったために、1951年まで再演されなかった (出版は1974年)。プッチーニは、本作から「アニウス・デイ」主題を歌劇《マノン・レスコー》に、「キリエ」主題を《エドガール》において転用しています。

ウラハア

おは声かけ

10/10 (水) 18:30~

↑ 大淀CC →

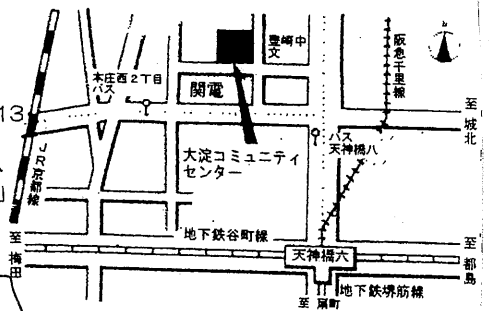
この日1313受付

写真・CD・楽譜・CD・振付DVD
¥1000, ¥44000, ¥3000, ¥500.

大淀コミュニティセンター

〒531-0074
大阪市北区
本庄東3-8-2
電話: 06-6372-0213

地下鉄谷町線・堺筋線、
阪急「天神橋筋六丁目」
下車 徒歩8分



10/17 (水) 18:30~

大淀CC (天六)

10/21 (日)

13:15~

大淀CC (天六)

10/24 (水)

18:30~

天五荘

10/31 (水)

18:30~

天五荘

まひ
 11/9
 今在 814席中 583席たど？
 満席(は)？ 残り 231を埋めよう？

5つの通常ミサ式文（キリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス、アニウス・デイ）からなる約 50 分の大作。テノールとバスの独唱に合唱（プッチーニとしては、女声っ気のない珍しい編成）。

1. キリエは、優しいオーケストラの旋律から始まる癒される音楽。合唱も終始柔和な雰囲気であられるゆったりした展開である。
2. グローリアは、それだけで 20 分近くかかるが、さらにいくつかに分かれている。その最初は、快活で喜ばしい合唱について、祈りの歌となる。次いで、テノール独唱が、まるでアリアのような聖句を歌い始める。これは素晴らしい。ロッシーニやヴェルディの宗教曲にもテノールのアリア風聖歌がありますね。あんな感じ。そのあと、冒頭の合唱の場面が繰り返される。男声合唱により主導される力強い部分（Qui tollis peccata mundi・・・）が始まり、対するオーケストラもなかなかダイナミックになってくる。最後はアーメンで高らかに終わる。
3. クレドは荘重で、いかめしい雰囲気が始まる。ここも 15 分と長い。やがて、テノールが合唱のうえに歌いはじめる。イエスがマリアから生まれたくだりを神妙に歌う。ピラトにより十字架にかかれ云々では、変わってバスが切々と深刻に歌う。その後は、合唱が引き継いで、長々と歌い継いでゆく。
4. サンクトゥスは、たった 3 分。合唱とテノールによるものだが、通常サンクトゥスには、爆発的な歓喜を期待するものの、ここでは意外と大人しく。あっさり終わってしまう。
5. アニウスデイは、さらにアツサリしたもので、3 分に満たない。二人の独唱が、合唱のうえに、単純で親しみやすいアニウスデイを繰り返して歌う。このデュエットは、旋律こそ違え、ロドルフォとマルチェッロを思い起こしてしまった。静かに、やはりあっさりと終わってしまう、この優しく、小粋な終曲は悪くない。

一瞬、ちょっと竜頭蛇尾の感のあるプッチーニのミサ曲。でも、粹で憎めない、押さえておかなくてはならない作品ですよ。聴いていると密室に閉ざされた雰囲気は微塵も無く、まるで屋外の太陽の光に照らされたとても開放的なイメージが広がっていきます。たとえば夕陽に照らされた海岸を想わせたり、晴れた秋空の心地良い風を感じたり、光と影の美しいコントラストだったり、オペラの情景のように様々な感覚が湧き上がってくるのです。そのことからこの作品がいかに自由にイメージーションに溢れているかを如実に示していると言えます。この作品を聴くと、後年の素晴らしいオペラへとつながる萌芽がはっきりと出来上がっているのをお気づきになるに違いありません。

（と、プッチーニファンへの
グロリアよ！）